

1994年度平城宮跡・平城京跡出土木簡

平城宮跡発掘調査部

1994年度の調査では、平城宮跡調査の1カ所と平城京跡の1カ所から、計875点の木簡が出土した。概要は『平城宮発掘調査出土木簡概報』(31)で報告するので、ここでは主要なもののみを報告する。小子門および東一坊大路(第248-13次調査) 小子門南の東一坊大路西側溝から17点(うち削屑14点)、二条大路南側溝の東一坊大路東側溝との合流点付近から1点出土した。

平城京左京七条一坊十六坪(第252・253次調査) 平城京左京七条一坊十六坪の調査で木簡が出土したのは、六条大路北側溝と東一坊大路西側溝である。六条大路北側溝からは3点出土した。一方、東一坊大路西側溝では奈良時代の堆積層から、木簡が総計854点(うち削屑496点)出土した。木簡に記された年紀は、天平2年から宝亀7年にわたる。その他「道」字の木印があるが、捺すと左文字。

木簡の中には、官司関係のものが多く、「皇后宮職解」(⑤)や、中務省から衛門府に宛てた移(⑥)、「諸司」からの文書を貼り継いだ卷子に用いられた題籤軸(⑨)などがある。また衛門府(⑥⑦⑮)や右兵衛府など、衛府にかかわるものが目立つ。

⑥は門の警備にあたる「列」の歴名であるが、「中大伴門」の門号は注目される。弘仁陰陽寮式土牛条逸文に見える「大伴門」は、朱雀門に相当する。したがって「中大伴門」は朱雀門に関連し、平城宮内の門の門号とみられるが、「中」から想起されるのが、『続日本紀』天平神護2年5月戊午条の「中壬生門」である。この門が壬生門なのか、その一つ内側の門か説が分かれるが、類例の出現により、「中+宮城門」という形で、宮城門の内側にある中門(養老令では宮門)相当門を表す可能性が強くなったであろう。そうであれば「中大伴門」は朱雀門の北側の、第一次朝堂院南門にあたろう。こう推定できれば、平安宮では朱雀門の北側にあたる朝集殿院南門が、大伴門から派生した「応天門」という名で呼ばれるようになることも、より理解しやすくなった。そして中門の警護は衛門府と衛士府が担当したから(宮衛令集解宮閣門条所引古記説)、「中大伴門」を守る「三龍列」は門部ないしは衛士であろう。同木簡に見える「曾雅門」については、蘇我氏との関連が想起されるが不詳。

②から⑤までは、ほぼ同形の2点分の琴形に墨書のあるものである。②と③が上板で、④と⑤は底板。④⑤はともに下端にのみ、目玉状の丸を墨で描いた部分が残存するが、本来は上端にもあり、底板から斜めに立ち上がり、前後の側板となっていたとみられる。これらとは別に逆台形の左右の側板が出土しており、鋸歯状模様を墨線で描く。それらを組み合わせると、船のような形になる。そうすると④⑤下端の墨円は、舳先ないしは艫部分に描かれていることになるが、『吉備大臣入唐絵巻』に見える吉備真備の乗る遣唐使船の舳先には、眼が描かれている。二つの墨円はそれに類似するが、墨円部分を折り曲げるために⑤に刃でつけた筋の跡からすると、文字や墨円は内側になる可能性がある。

なお③④⑤の墨書は内容的に習書であるが、共通する字がある。また②は他の習書とは趣を異にするが、四点ともに同筆・同材とみられる。いずれの文字も、琴形の板の中に上下はおさまり、左右もほぼおさまるが、②材の右端にある墨付きは、④の三字目の「道」のしんによりの左下に続くものとみられることからすると、少なくとも②と④は、字を書いてから板を切ったことになる。祭祀に用いたとみられる琴形に文字、それも多くは習書を記した意味はわからない。

このように内容的に注目される木簡が多いが、大路の側溝から出土したことから、これらを一括史料として扱えるか、また廃棄場所はどこかという問題が残る。平安京では、京内に左右衛門府町・左右兵衛府町などがあったことからすると、平城京内の同種の施設からの廃棄、あるいは側溝上流にあたる平城宮からの廃棄という可能性も考えられよう。(館野和己)

第二四八—一三次調査

東一坊大路西側溝

① 玉所 (58)・(24)・3 081

二条大路南側溝

② 隱伎国周吉郡新野郷布勢里私部 (158)・(30)・4 031
調海藻六斤 天平六年

第二五二・二五三次調査

六条大路北側溝

③ 茄子一斗 糖十 (116)・(14)・4 081
〔斤力〕

④ 〔岐国寒〕 (39)・(19)・3 081

東一坊大路西側溝

⑤ 皇后宮職解申請 (122)・(33)・4 065
舍人事

⑥ 〔中務省移衛門府力〕 (113)・(8)・3 081
〔夫力〕

⑦ 衛門府 (134)・(13)・2 081
〔故牒〕

⑧ 牒 松本 (63)・(17)・3 081
〔宅力〕

⑨ 宝字七年六月諸司繼文 (96)・(36)・7 061
〔題籤軸〕

⑩ 宝字七年六月諸司繼文 (127)・(23)・5 019
請

⑪ 右命婦已下役夫 (298)・(30)・3 051
請塩八勺 〔六月十六日案主生江乙万呂〕

⑫ 問食式升給案主藏人等料 (269)・(15)・2 081
〔雅力〕

⑬ 二升充玉作 (182)・(29)・3 019
〔門力〕

⑭ 五日阿閉堀川 (214)・(44)・5 031
府進塩肆斗二升六合 十月料者

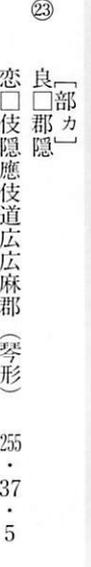
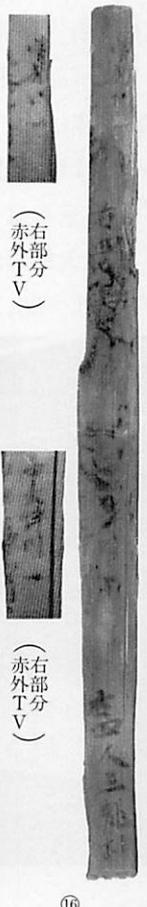
⑮ 月下番 (149)・(17)・4 081
〔應仕力〕 十月廿一日
〔奉門部三〕

⑯ 大宰府貢交易油三斗 (374)・(14)・2 081
〔五升力〕

⑰ 史二府一中九左右二 (420)・(29)・7 081
〔雅力〕 右四人鳴村列 中大伴門 右四人三龍列

(右部分 赤外TV)

(右部分 赤外TV)



⑲ 真高錢六百元 (113)・(21)・3 032
〔田力〕

⑳ 周防国大嶋郡務理郷平群部岡調塩三斗 (220)・(28)・3 033
天平勝宝五年九月

㉑ 天平二年九月十九日来錢十四 (298)・(30)・3 051
〔貫力〕

㉒ 大和国忍海郡 (251)・(37)・5 011
〔琴形〕

㉓ 封 (165)・(31)・(4) 031

㉔ 良〔部力〕 (255)・(37)・5 011
恋〔伎隱〕 伎道広麻郡〔琴形〕

㉕ 隱道道〔二墨円〕 (216)・(38)・4 019
〔琴形〕

㉖ 隱郡郡〔墨円〕 (208)・(38)・3 019
〔琴形〕